

## 結果の概要

- 第1部 生活習慣病及び肥満の状況
- 第2部 身体活動及び運動の状況
- 第3部 生活習慣病に関連する栄養素等の摂取状況
- 第4部 健康・食生活に関する意識（アンケート調査）

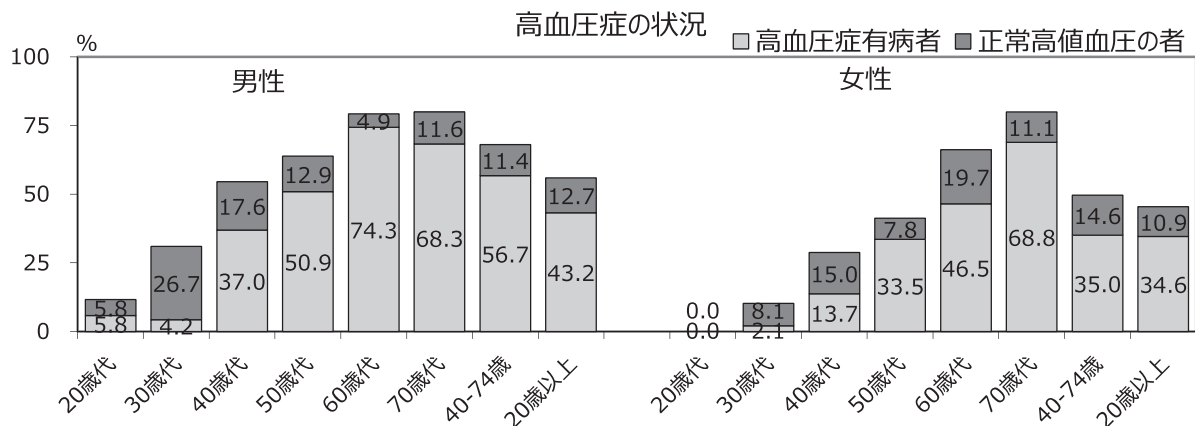
図表中の「年齢調整値」は平成17年国勢調査男女計人口を基準に年齢調整した値である



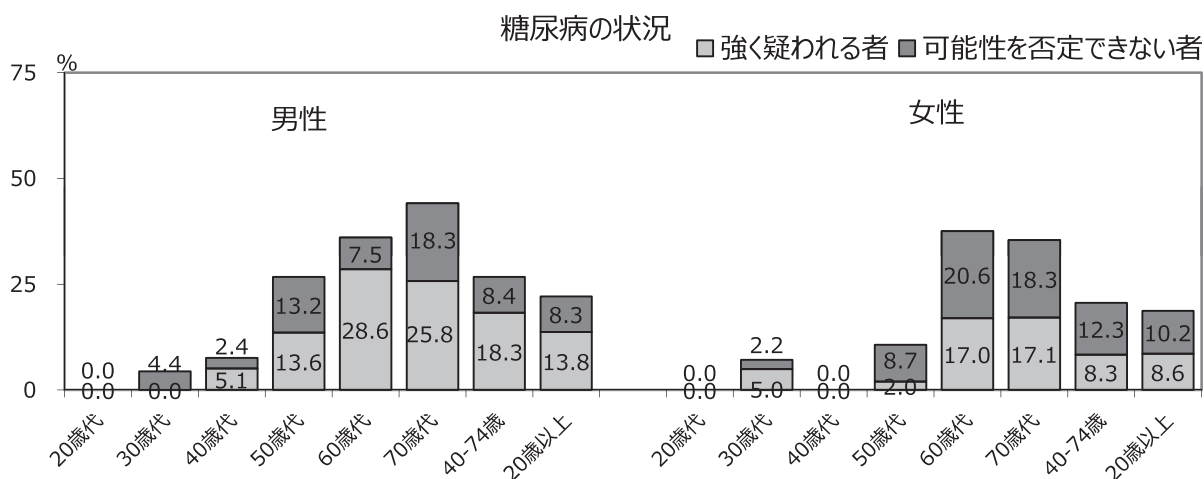
## 第1部 生活習慣病及び肥満の状況

### 1 生活習慣病の状況

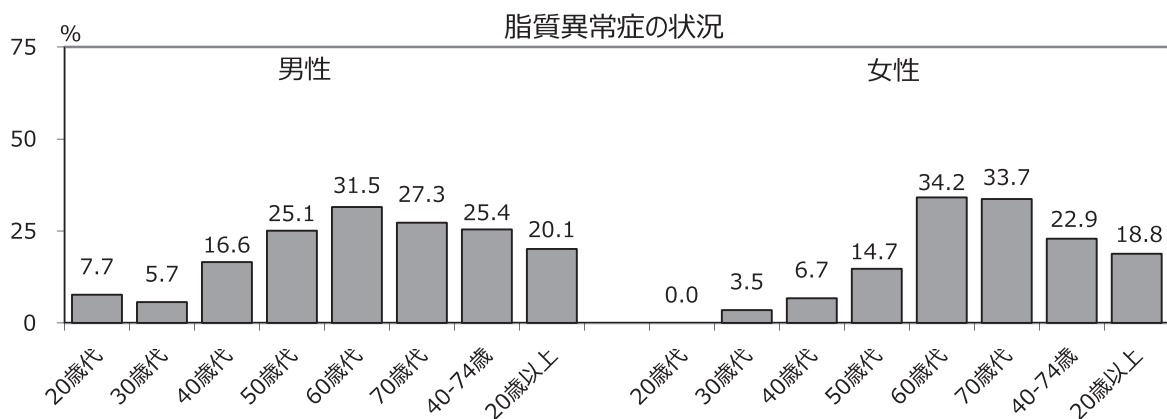
高血圧症、糖尿病、脂質異常症の状況は、「高血圧症」有病者の割合が最も高く、男性43.2%、女性34.6%であり、「糖尿病が強く疑われる者」は男性13.8%、女性8.6%、「脂質異常症が疑われる者」は男性20.1%、女性18.8%である。



高血圧症有病者: 収縮期血圧140mmHg以上、または拡張期血圧90mmHg以上、または血圧を下げる薬を服用している者  
 正常高値血圧の者: 収縮期血圧130-139mmHg、または拡張期血圧85-89mmHgで、「強く疑われる」以外の者

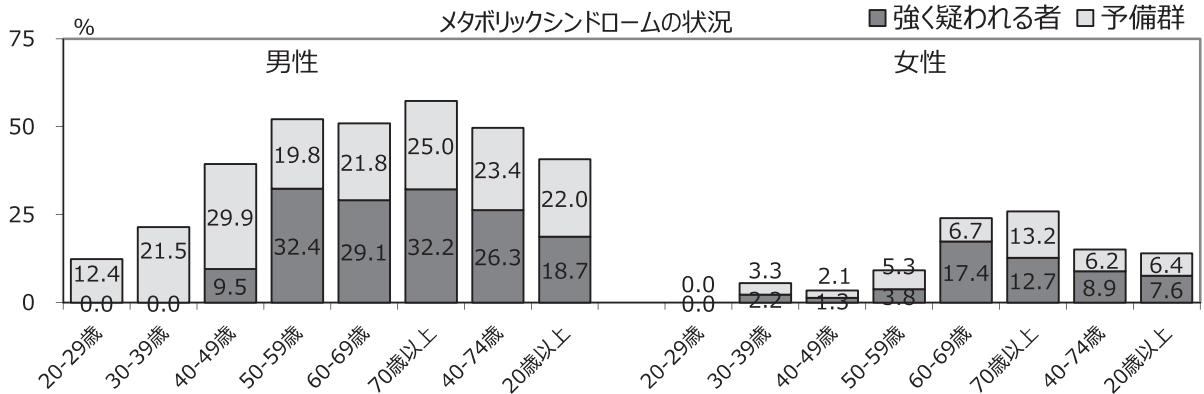


糖尿病が強く疑われる者: HbA1c(NGSP値)6.5%以上、または、治療中の者  
 糖尿病の可能性を否定できない者: HbA1c(NGSP値)6.0%以上、6.5%未満で、「強く疑われる人」以外の者



脂質異常症が疑われる者: HDLコレステロール40mg/dl未満、もしくは薬(コレステロールまたは中性脂肪を下げる薬)を服用している者

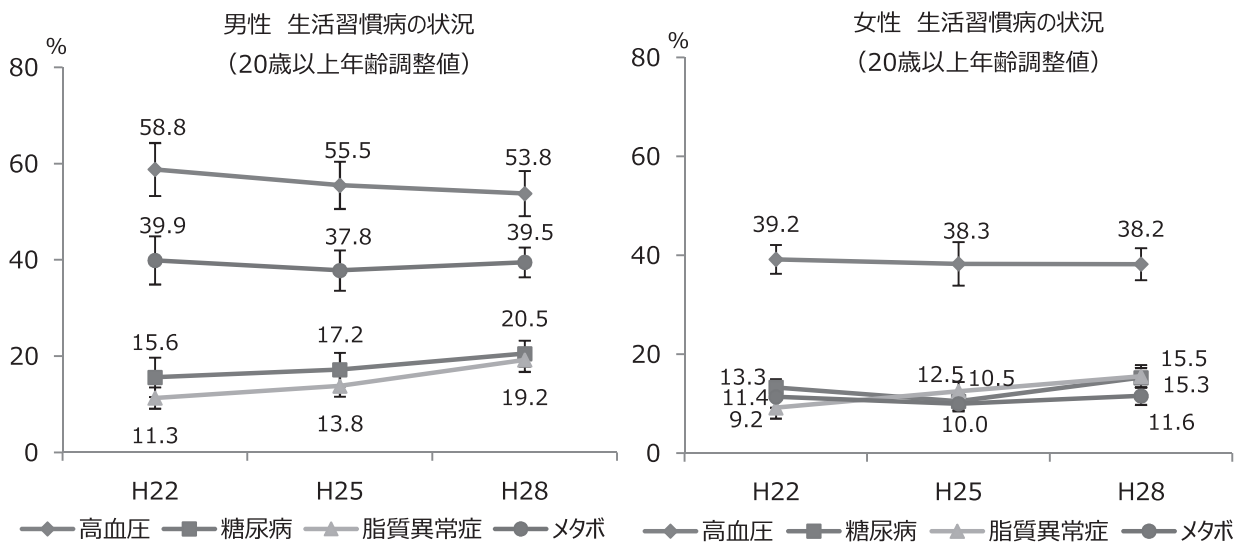
メタボリックシンドロームの状況は、20歳以上全体では、「強く疑われる者」に該当する人の割合は男性18.7%、女性7.6%であり、男性は「予備群と考えられる人」を含めると40.8%である。



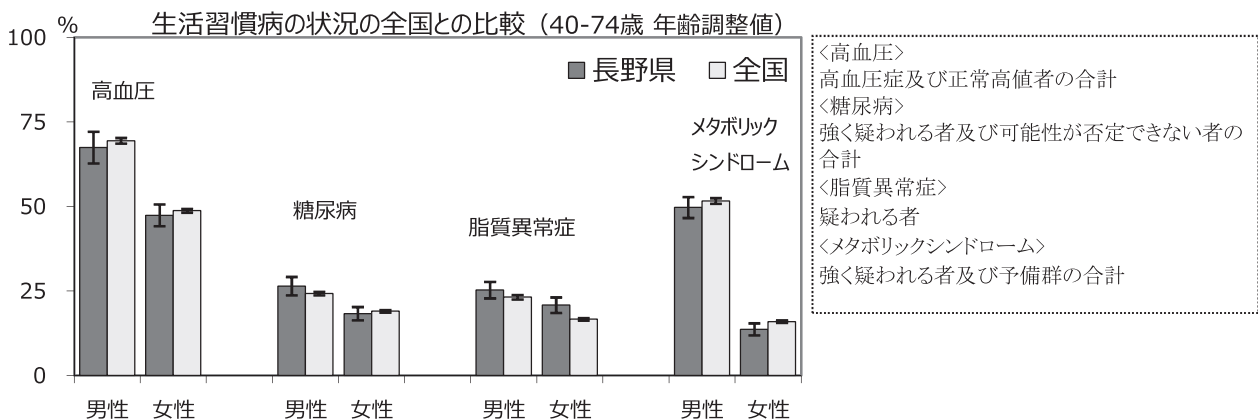
腹囲該当(男性85cm以上、女性90cm以上)かつ下記3項目のうち2項目以上該当する者を「強く疑われる」、1項目該当する者を「予備群」としている。

- ①HDLコレステロール40mg/dl未満、かつ/または薬(コレステロールまたは中性脂肪を下げる薬)を服用
- ②収縮期血圧130mmHg以上、かつ/または 拡張期血圧85mmHg以上、若しくは血圧を下げる薬を服用
- ③HbA1c6.0%(NGSP値)以上かつ/または、インスリン注射使用または血糖を下げる薬を服用

20歳以上の生活習慣病の状況(正常高値、強く疑われる、予備群を含む)について、平成22年からの推移をみると、脂質異常症の割合は男女ともに増加している。

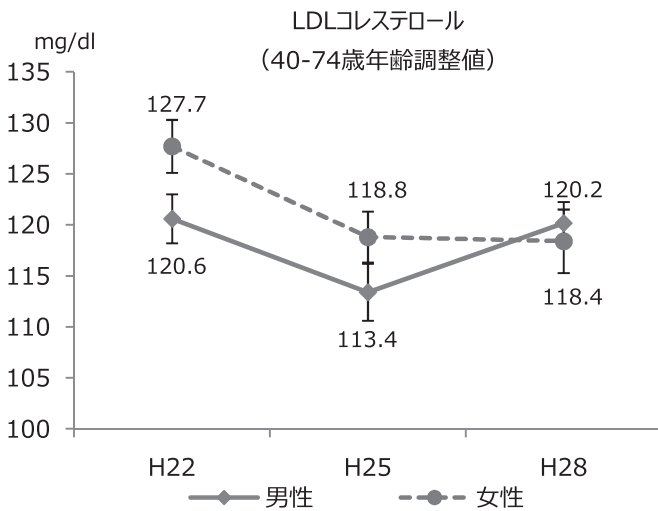
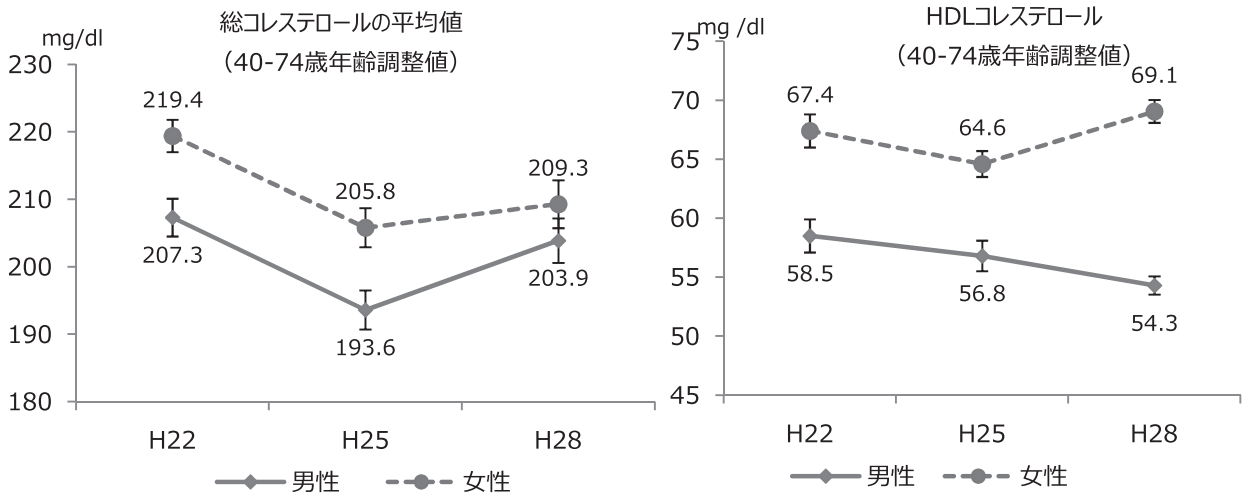
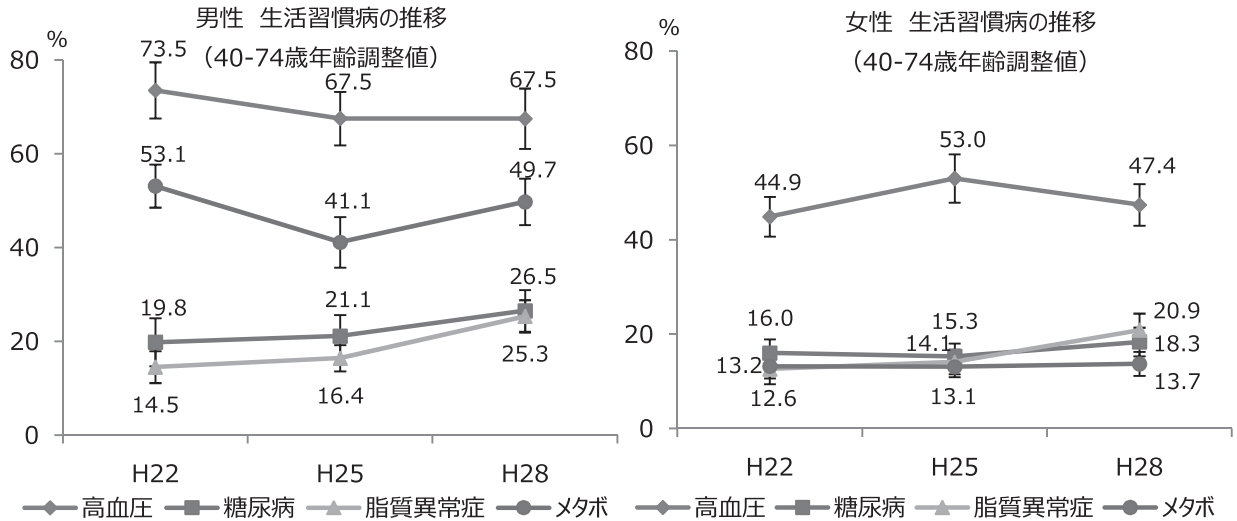


40-74歳の高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドロームの状況を全国と比較すると、いずれも全国と同水準である。



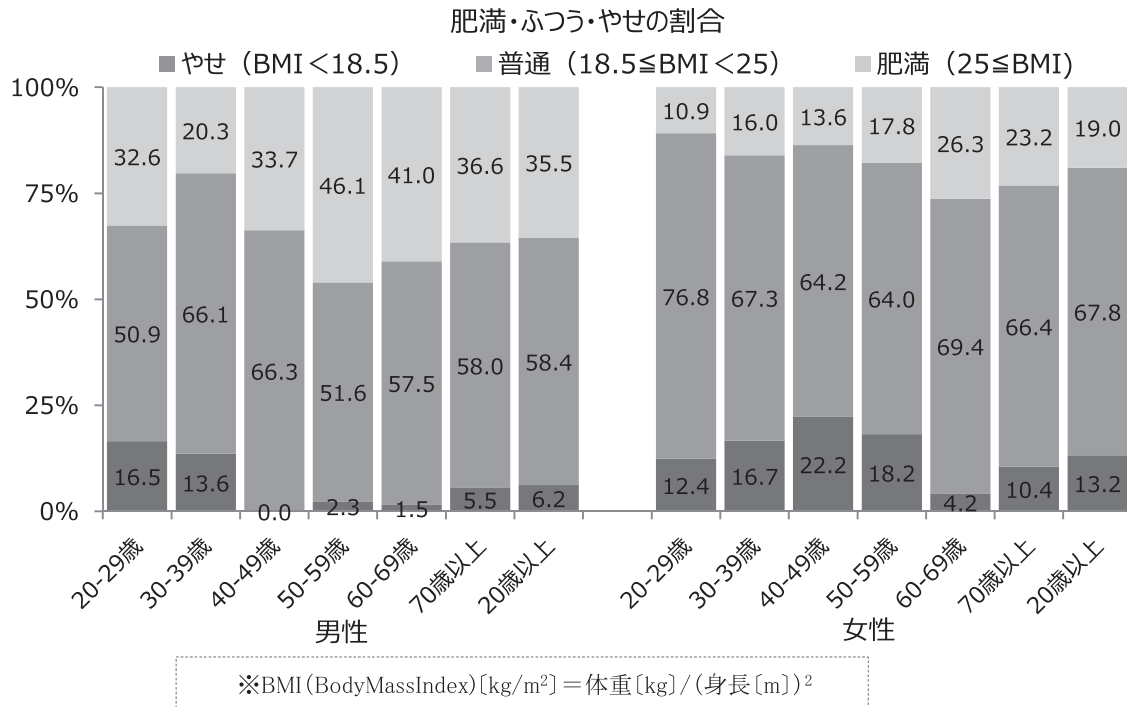
全国:平成28国民健康・栄養調査報告  
 年齢調整値:平成17年国勢調査男女計人口を基準に年齢調整した40-74歳の平均値  
 誤差線:標準誤差(全国は公表された人数及び割合から計算した値であり参考値)

40-74歳について、高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドロームの平成22年からの推移をみると、男女ともに「脂質異常症が疑われる者」の割合が増加している。  
 総コレステロール値、LDLコレステロール値、HDLコレステロール値の平均値について平成22年からの推移をみると、男性はHDLコレステロール値が低下している。

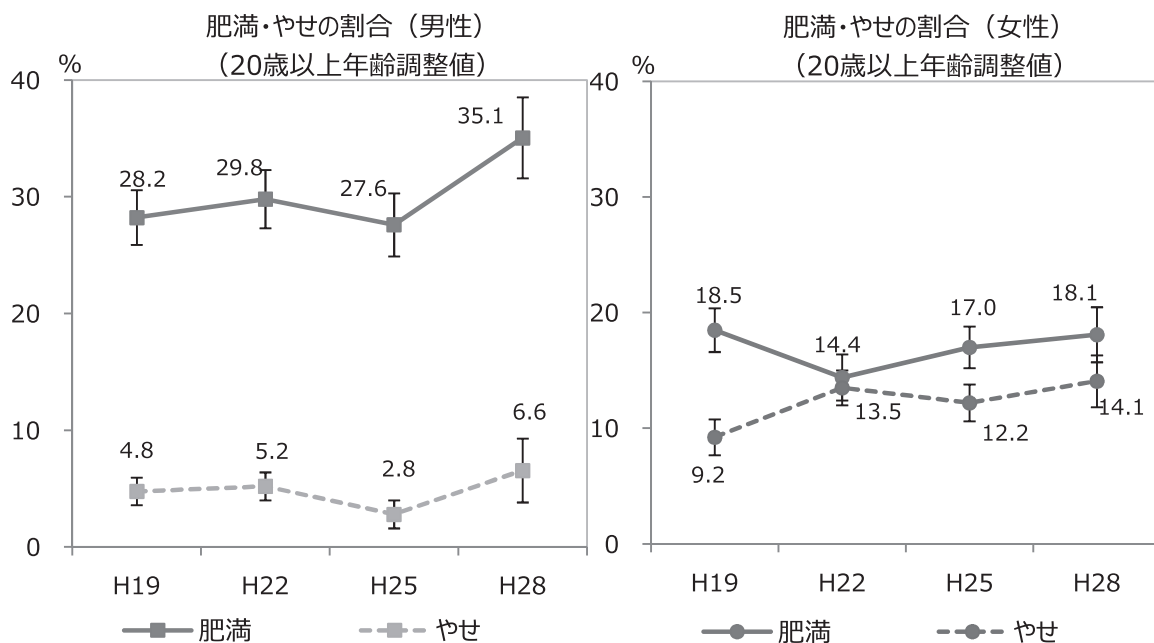


## 2 「肥満」及び「やせ」の状況

適正体重を維持している人の割合は、20歳以上全体では、男性は58.4%、女性は67.8%であり、男性は肥満者の割合が高く35.5%である。  
女性は、男性に比べて「やせ」の割合がと高く13.2%である。

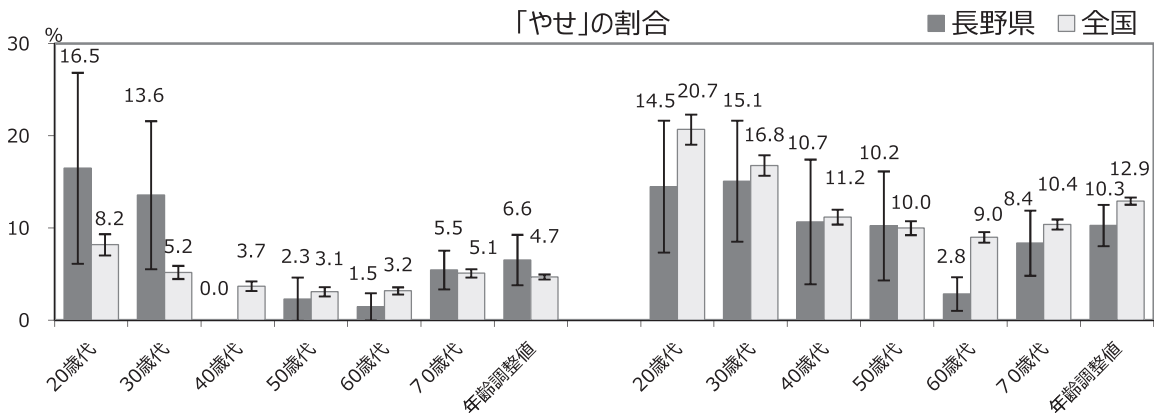
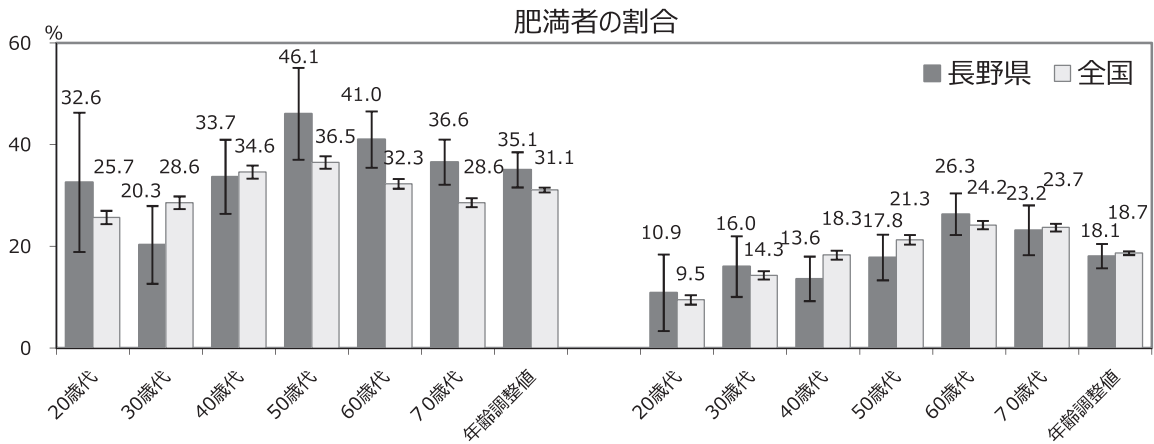


「肥満」及び「やせ」について、平成19年からの推移をみると、男性は「肥満」の割合が増加し、女性は「やせ」の割合が増加している。



年齢調整値: 平成17年国勢調査男女計人口を基準に年齢調整した20歳以上の平均値  
誤差線: 標準誤差

肥満の状況を全国と比較すると、男性は50歳代以上は長野県は全国よりも肥満者の割合が高い。  
やせの状況については、長野県と全国の状況に大きな差はみられない。



全国:平成28年国民健康・栄養調査報告  
年齢調整値:平成17年国勢調査男女計人口を基準に年齢調整した20歳以上の平均値  
誤差線:標準誤差(全国は公表された人数及び割合から計算した値であり参考値)長野県長野県

低栄養傾向の高齢者の割合 (BMIが20以下) は、男性10.3%、女性は23.6%であり、平成22年からの推移をみると、女性は増加している。

